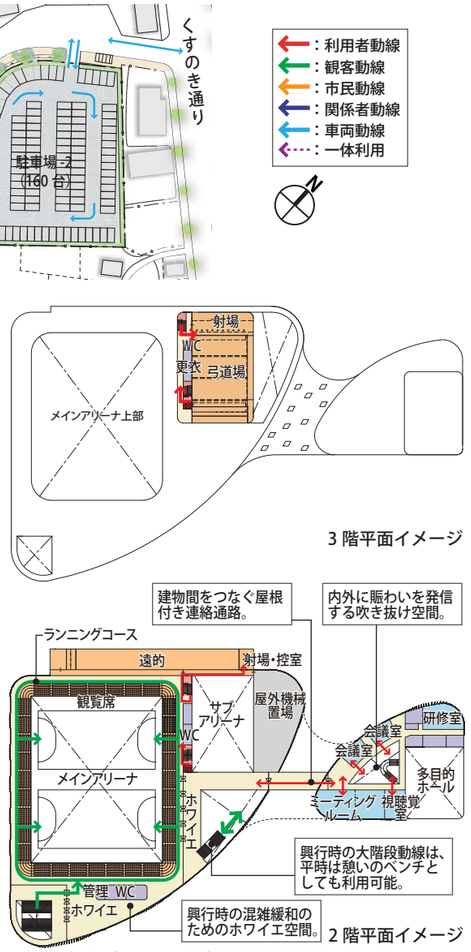
様々な利用に柔軟に対応できる使いやすい施設を目指します

1 階平面イメージ



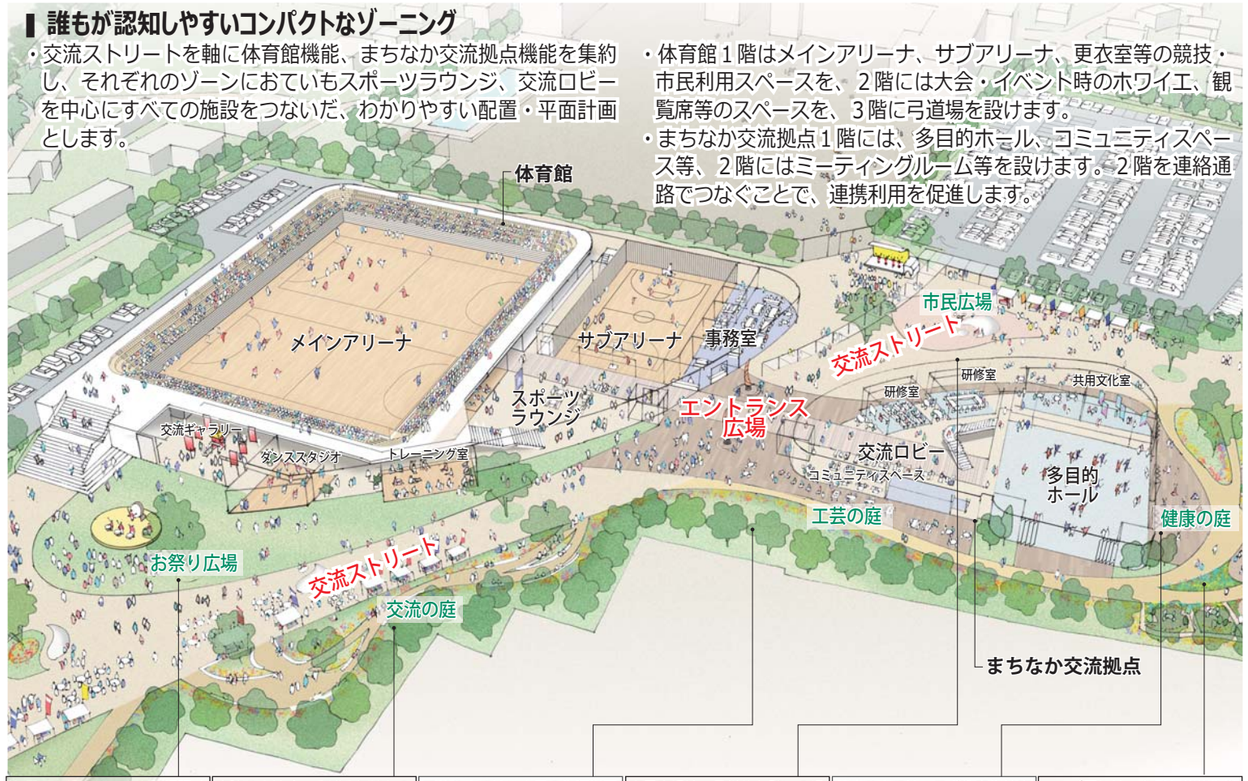
2 階平面イメージ

▌誰もが認知しやすいコンパクトなゾーニング

・交流ストリートを軸に体育館機能、まちなか交流拠点機能を集約し、それぞれのゾーンにおいてもスポーツラウンジ、交流ロビーを中心にすべての施設をつないだ、わかりやすい配置・平面計画とします。

・体育館１階はメインアリーナ、サブアリーナ、更衣室等の競技・市民利用スペースを、２階には大会・イベント時のホワイエ、観覧席等のスペースを、３階に弓道場を設けます。

・まちなか交流拠点１階には、多目的ホール、コミュニティスペース等、２階にはミーティングルーム等を設けます。２階を連絡通路でつなぐことで、連携利用を促進します。



お祭り広場では、小泉町幌踊りや福満神社の春祭りのイベントでも利用することができます。

お祭りイメージ

交流の庭はくつろげる気持ちの良い豊かな空間として整備します。

交流の庭イメージ

工芸の庭では、市民の生涯学習の活動テラスとして利用することができます。

生涯学習のイメージ

市民広場は、日常的な憩いの場として使える公園広場です。

公園広場イメージ

健康の庭では、ヨガ教室や健康体操など軽運動を行うことが可能です。

デッキでヨガをしているイメージ

ハーブ園には、多彩な草花や樹木をまとめ、癒しの散策路として整備します。

ハーブ園のイメージ

競技スポーツを推進し、競技力の向上を図る施設

様々な大会・イベントに対応できる機能性に優れたアリーナ計画

▌大会やイベント時の明快な動線分離

・通常時は、南と北から視認性が高い交流ストリートを通り、エントランス広場からスポーツラウンジと交流ロビーにそれぞれアクセスすることができます。

・大会運営時は、動線の交錯を防ぐため、大会関係者は西側の関係者用入口、観客は２階ホワイエを、それぞれ明確に分けて利用できます。

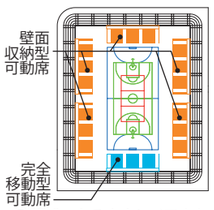
・通常利用と大会利用を両立させるため、トレーニング室、ダンススタジオや弓道場は１階スポーツラウンジから、多目的ホールや研修室等は交流ロビーから出入りができるよう、動線を明確に区分します。

・上下足の切り替え方については、体育館機能の１階と３階は上足を基本としますが、下足利用も含めて両面の検討を行います。また、平常時はもちろん大会運営時においても、屋内・屋外階段で安全に避難できる計画とします。

▌臨場感のある観客席

・メインアリーナはハンドボール２面分、バスケットボール３面分の面積をとり、可動観客席とあわせて約 3000 席の規模とします。

・バスケットボール、バレーボール、ハンドボール等さまざまな大会開催時においても、競技面から可動観客席～固定席まで連続的な客席の設置を可能とした、臨場感あふれる観戦空間を実現します。



臨場感のある客席レイアウト

▌様々な利用形態に対応するアリーナ環境

・アリーナ内の音環境は、講演会や成人式なども視野に入れ、音声の明瞭度を保ちながら、スポーツ観戦の熱狂感を十分に伝えられるような適切な残響時間を確保します。

・アリーナの床は様々なイベントに活用できる耐荷重を確保します。

▌お祭り広場と一体利用が可能なアリーナ計画

・大規模イベント時には、アリーナ（メイン、サブ）の交流ストリート側を開放することで、お祭り広場と一体的に利用することができるようにします。

健康づくり・体力づくりを推進する施設

多様な世代のニーズに対応し、賑わいと交流を生み出す施設づくり

▌気軽に立ち寄れる、市民交流のきっかけとなるスポーツラウンジ・交流ロビー

・スポーツラウンジはエントランス広場と一体となり、各競技場内の様子を見ることができ、市民の様々なスポーツへの関心を高めます。

・交流ロビーはコミュニティスペースと一体となり、館内を見通すことができ、利用者にとってのわかりやすさに配慮します。

・スポーツラウンジ、交流ロビーにはスポーツ団体や運動プログラムの情報コーナー、市民の作品の展示スペースや休憩スペース等を設け、気軽に立ち寄り、市民交流のきっかけとなる楽しい場所とします。

賑わいと交流が生まれるエントランス広場イメージ

▌子育て世代も安心して利用できる子育てサロンと幼児体育室からなるキッズルーム

・キッズルームには、子育てサロンと一体の幼児体育室を設け、屋内大型遊具やボールプールなど、楽しみながら体を動かせるアイテムを用意します。

・メインアリーナの窓からも幼児体育室が見えるようにすることで、親も安心して活動を行うことができるようにします。

子育てサロンと幼児体育室が一体のキッスルームイメージ

▌敷地全体を使い切る活動スペースづくり

・敷地にはお祭り広場、交流の庭、工芸の庭、市民広場、健康の庭を配置し、子供からお年寄りまで、みんなが集まってくる施設づくりを目指します。

・研修室やトレーニング室は、広場と一体利用できる開かれた場所とします。

誰もが使いやすく楽しめる施設

使いやすく、管理しやすい施設づくり

▌ひとつ屋根で結ばれた一元管理可能な施設形態

・半外部のエントランス広場を挟んで両側に体育館とまちなか交流拠点を配置します。中央部分に事務室を設けることで、分棟でありながらも一元管理を可能にします。

・事務室は、交流ストリートから駐車場まで目が行き届きます。子供達も安心して通ることができる通学・通園路として、にぎわいのある施設となります。

▌まちなか交流拠点機能の単独利用

・分棟とすることで、多くの観客が訪れる大会運営時において、観客、選手、まちなか交流拠点利用者の動線を明確に分けることができます。スポーツイベント開催時でもホールでピアノ発表会を開いたり、講演会を開催する等、体育館と交流拠点の活動がそれぞれの行事に影響されず、さまざまなニーズに応える運用が可能になります。

▌多用途に利用できる多目的ホール

・多目的ホールは、可動観覧席を設置し、約500人が音楽会や講演会等を着席して鑑賞できるようにします。
また、可動観客席を収納することで、軽運動や親子ふれあいイベントなど、フレキシブルな利用ができます。

多用途に利用できる多目的ホールのイメージ

▌誰もが使いやすいユニバーサルデザインの徹底

・誰もが使いやすい施設づくりを目指し、建物自体はもとより敷地全体まで、段差の解消、雨に濡れないアプローチ、分かり易いサイン等を整備します。